

玉燈

～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

「架け橋」

長浜市教育委員会
教育長 織田 恭淳



♪ Somewhere over the rainbow skies are blue
And the dreams that you dare to dream really do come true
(虹の向こうの空は青く、信じた夢は全て現実のものとなる)

これは、ミュージカル映画「オズの魔法使い」で歌われた「Over The Rainbow」の一説です。日本では、5歳児と小学校1年生の2年間で「架け橋期」と言います。私は、この時期とこの歌詞のイメージがいつも重なります。不安はあるけれど、仲間とともに勇気を出して小学校という社会への第一歩を踏み出そうという子どもたちへのエールに聞こえるのです。

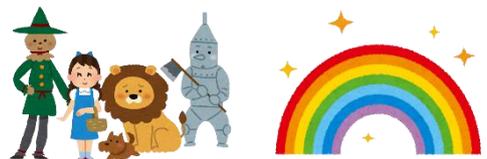
さて、幼児教育の重要性については、1960年代にアメリカで行われたペリー幼稚園プログラムという社会実験で証明されています。このプログラムは、無作為に抽出した貧困層の子どもに幼稚園での教育や保護者への支援を行いました。そして、プログラムを受けられていない同地区の子どもと比較して、その後の人生においてどのような差が生まれるのかを調査したものです。調査の結果では、「IQや学力などが高くなる」、「高校中退者や犯罪者が少なくなる」などの効果が出ました。その結果、納税者が増え貧困や虐待の連鎖を緩和できたという報告がされています。

今回、私は改めてその中の「40歳までの逮捕歴5回以上」という項目に着目しました。それは、ペリー幼稚園出身者は36%が該当しており、それ以外のグループは55%となっています。確かに優位性はあるものの、なぜプログラムを受けたにもかかわらず36%の人が5回以上も罪を犯すのでしょうか。そこに、学びの連続性や健全な教育環境の維持の重要性を見出します。例え、充実した幼児教育を受けたとしても、その後の教育によっては、意図したような人生にはならない可能性があるのです。

誰一人取り残さない教育の実現のためには、人生の土台作りを幼児教育からその先へとつなぎ続ける「架け橋期」の重要性を認識しなければなりません。

教育センターでは、「園小接続期カリキュラム実践研究」を昨年度より行っています。1年目は、園小の教員が協働して接続期カリキュラムの策定やスタートカリキュラムの編成を行いました。その一番の成果は、先生方が異校種へ訪問することにより、子どもの姿やそこでの協議に新しい発見や学びを得たということです。まさに先生方にとっても架け橋となったのです。今年度は、該当学年だけでなく全教員で実践に臨めるような幼保小合同会議の充実、カリキュラムの見直しと保育・授業の改善と発展を目指します。また、カリキュラムの実践過程や成果を市内の校園に発信し、普及啓発します。これを参考にして、市内各地域において活発な交流をお願いします。

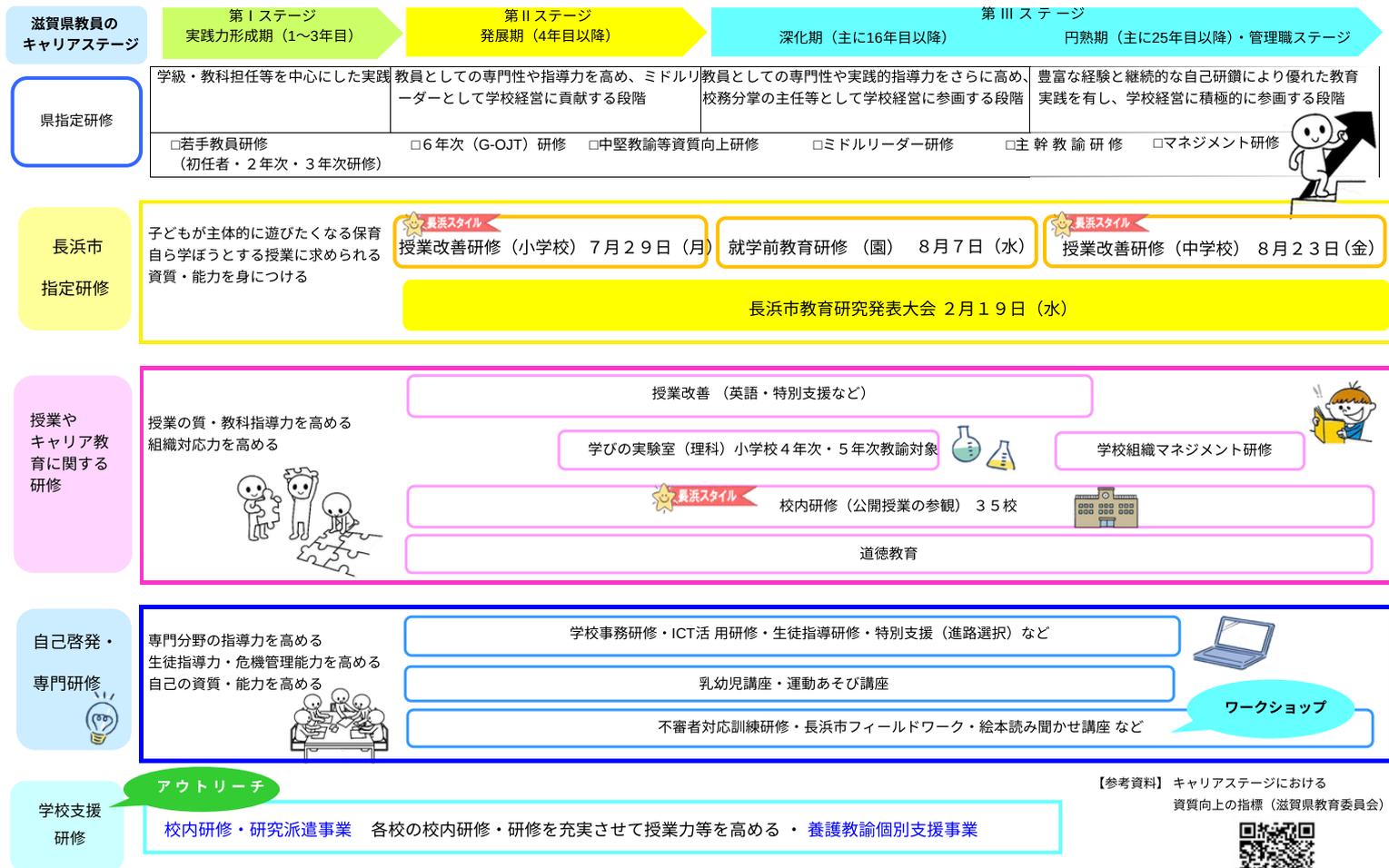
15歳の思春期まで教育環境を整え、相応の指導や支援をすれば、「自分はどう生きるべきか」という哲学的な思考を身につける可能性が出てきます。その思考を身につければ、自律した生き方ができるのです。架け橋期のみならず、15歳までの学びを有効に連続させること、良質の教育環境を担保し続けるということは人生の土台作りをより堅固にできるチャンスです。本市の子どもたちは、全国学習状況調査から、決して十分な環境にないという状況が見て取れます。しかし、この子たちに虹の向こうの夢や希望を現実のものとしてもらうために、これからも「架け橋」の重要性を理解した保育と授業が展開されることを期待します。



「真の学力」を身につけた子どもの育成



令和6年度 長浜市教育センター研修体系図



【参考資料】 キャリアステージにおける資質向上の指標 (滋賀県教育委員会)



教育センター 研究事業・教育奨励事業



研究1年次 授業改善研究



授業改善により、学習の質を一層高めていくことで、児童生徒が生涯にわたって能動的に学び続ける力を育てる

テーマが決定しましたら案内します。ぜひご協力をお願いします。



研究2年次 園小接続期カリキュラム 実践研究



子どもの学びをより豊かなものへとつないでいくために、保育・授業の質の向上を目指す

2年次（令和6年度）
幼保小の相互参観や、
交流の充実を図り、
教育の内容や方法に
ついての理解を
深化させる



教育研究奨励事業



保育・教育現場での日々の教育活動をまとめ、個々の指導力や組織力の向上を目指す

6月頃に案内する予定です。ご応募をお待ちしています。



【昨年度の研究・研修の様子】



子どもたちのより良い未来のために 学び続けよう

研究・研修室長 野村 由紀子

教職員は子どもたちの「今」だけではなく、「未来」にも影響を与える存在です。だからこそ、子どもたちの学びや成長を支えていくために、教職員自身が学びを積み重ね、成長し続けることが大切です。

教育センター研究事業では、研究協力校・協力員を募り、2年間の継続した研究を推進しています。園小接続期カリキュラム実践研究や授業改善研究、さらに学校支援研修や教育奨励事業など、すべてが個々の教師の成長につながることはもちろんのこと、長浜市の教育の発展を担う取組です。

また、研究事業では、主体的な学びにつながる授業改善や組織対応力に関する研修、自己啓発や専門研修など、皆さんに充実した研修を提案できるよう努めています。研修会を通して得る新たな知識や、教師としての学びを深めることで、子どもたちの学びや成長をより効果的にサポートできるようになります。

毎日の教育活動の中での学びは数多くありますが、外部での研修や校種間交流から学ぶこともまた多くあります。ぜひ研修会に参加して、共に学び、成長しましょう。皆さんのご参加を心からお待ちしております。

教育相談室より

令和6年度の事業

不登校や発達に関する教育相談を行うとともに、児童生徒の社会的自立を目指し、個に応じた指導や支援を行います。

長浜市HP



登校支援グループ

こどもサポートルーム なないろ

★不登校や不登校傾向にある児童生徒の社会的自立や学校復帰に向け、一人一人に合わせて学習や小集団学習、個に応じた活動、相談等を行います。

市内6か所に教室を設置⇒浅井分庁舎(大地の家)、浅井体育館横(あざい)

高月分庁舎(ジョイ)、湖北分庁舎(みらい)

木之本スティックホール内(ほっと)、朝日町・眞行寺内(ひまわり)



なないろ紹介動画



発達支援グループ

発達サポート事業

★視機能や体の使い方に課題がみられる児童に対し、専門的な立場から年間を通して指導方法等の助言や早期支援を行います。

講師 高橋絵理子 氏 (オプトメトリスト…視機能・目の使い方の専門家)
中瀬 弘士 氏 (作業療法士……体全般の使い方の専門家)

ひらがなの読み書きプログラム(市内全小学1年生を対象に実施)

★プログラムに基づいた支援についてセンターも協力させていただきます。

目的 ・ひらがな清音の確実な習得をめざし、その後の様々な学習上のつまずきに軽減を図る。
・発達上の課題を早期に発見し、個に応じた早期支援につなげる。

カウンセリング

★カウンセリングの必要性を感じたときには、ご連絡ください。

カウンセラー 田中 泉 (巡回カウンセラー……配置校5校に加えて対応可)
高田裕子 (センターカウンセラー…浅井分庁舎2階にて)



「一緒に、考えましょう。」

教育相談室長 天野 真知子

誰かに相談するのってむずかしいですね。「自分の弱みを見せたくない」「どうせ解決しないだろう」「そもそも相談する時間がない」そんな風に思って相談するのをあきらめたり、自分だけで抱え込んでしまったりすることがあります。「そのうち良くなるだろう」「どうしたらいいだろう」と様子を見ているうちに、さらに状況が悪くなってしまったり、より相談するのがむずかしくなったりすることもよくあることです。

人は誰も、それまでの人生で培ってきた考え方のクセやパターンがあります。なにか困ったことが起きたときは、無意識のうちにいつもと同じような思考パターンで考えてしまうものです。自分の思考だけでは、どうしても発想が凝り固まってしまいます。相談することにより他の視点を取り入れ、新たな視点で問題解決をしていくことができます。

様々な相談をお受けする中で『早期対応・早期支援』の大切さを強く感じます。教育相談室では、心理判定員、カウンセラー等の専門家の見立ても取り入れ、子どもの課題解決のため最も必要と考えられる支援へ繋げるお手伝いをします。相談することは勇気があることかもしれませんが、一人で悩まず気軽にご相談ください。

ごあいさつ



誰一人取り残さない教育の実現のために

所長 杉本 義明

各学校園において、熱意溢れる教育実践や研修・研究を積み重ねられ、本市教育の充実のため日々お取り組みいただいておりますことに、深く敬意を表します。

さて、子どもが抱える困難が多様化・複雑化する中で、誰一人取り残さず、すべての子どもの可能性を引き出すためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要です。

加えて、学校園はすべての子どもたちが安心して楽しく通える魅力ある環境でなければなりません。子どもたち一人ひとりが幸福や生きがいを感じられる学びを創っていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人ひとりの子どもを支え、世代を超えて循環していくことが大切です。

これらのためには、教職員が子どもの発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、一人ひとりの状況に応じた指導の充実が必要です。教育センターは先生方の力量向上のための研究・研修事業を進め、児童生徒とその保護者や教職員のための教育相談室を開設しています。各学校園、先生方のよき「伴走者」として、全力で応援いたします。センターの機能を大いにご活用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

長浜市教育センタースタッフ

所長 杉本 義明

教育相談室

室長 天野真知子

発達支援グループ

主幹 清水 としみ
相談員 川瀬 久栄
心理判定員 伊吹 秀世
心理判定員 森川 直美

登校支援グループ

主幹 関 あゆみ
相談員・指導員 矢守 慶光
相談員・指導員 宮野 武史
指導員 宮村 弘子
指導員 梶浦 恵子
指導員 後藤よしみ
指導員 西堀 愛
指導員 藤本和歌子

市カウンセラー

巡回カウンセラー 田中 泉
センターカウンセラー 高田 裕子

研究・研修室

室長 野村由紀子
主幹（幼児課兼務） 桐畑 良美
研究員 吉田 教人
指導力向上学校指導員 中山 秀子
《 養護教諭 》

外国人子どもサポート室

室長（研究・研修室長兼務）
主任指導員（ポルトガル語と兼務）
ポルトガル語（指導員）
ポルトガル語（支援員）
サポート支援員
（スペイン語、タガログ語、ベトナム語通訳）
初期指導員